

濟生

SAISEI

THE NEWSLETTER of
Social Welfare Organization
Saiseikai Imperial Gift Foundation, Inc.

「済生会交差点」

脳卒中研究グループ、
先駆的な病院総合医

No.1084



10

October 2019

社会福祉法人

恩賜
財団

済生会

<https://www.saiseikai.or.jp>

主治医以外に 病棟に包括診療医を配置 患者への素早い対応で 医療の質が向上

先駆的な
病院総合医

熊本病院

左から右田師長、園田部長、山城部長



熊本病院は2017年4月、包括診療部を立ち上げ、そこに所属する包括診療医である「病院総合医」を病棟に配置する先駆的なシステムを導入しています。病院総合医とは耳慣れない言葉ですが、入院患者の日常の医学的な管理はもちろん、多職種と協働して生活面までも含めた包括的なケアを行う専門医で、いわば「病棟のかかりつけ医」です。

「入院患者の主治医は、その診療科の専門医ですが、手術や外来などで離れ、特に日中の病棟は「無医村」になってしまいがち。その患者管理を病院総合医が担うことで、専門医や病棟スタッフの負担を軽減し、患者へのタイムリーな対応につながります」と園田幸生・包括診療部長は解説します。

園田包括診療部長、回診へ 患者の「苦情」も 受け付け

園田部長は毎朝一番に、担当の3階病棟の入院患者約60人を回診。患者が話しやすい雰囲気づくりに気を配ります。「かかりつけ医ですから、毎朝、変わらない顔を見ることが大事です」。体調面の訴えはもちろん、病室の扉が閉まりにくいなどの「苦情」にもすぐ

“病棟のかかりつけ医”として、担当病棟の患者約60人を毎朝回診



対応します。

看護師をはじめ病棟スタッフに対しても円滑なコミュニケーションを心がけています。スタッフステーションで気軽に相談に応じ、多職種カンファレンス

では各専門職の視点から積極的
に意見を出してもらいます。

脳外科・神経内科がメインの3階西・東病棟の右田みどり看護師長は、病院総合医の病棟配置の効果をこう説明します。



多職種が集うスタッフステーション内に園田部長の席もある。すぐ近くに何でも相談できる医師がいて、即対応できることで業務が円滑に



病院総合医、看護師、管理栄養士、介護福祉士、薬剤師、MSWによる多職種ケアカンファレンス。入院患者の情報共有とともに、各専門職の専門性に学ぶ勉強会も兼ねている

「看護師が発熱や尿路感染の疑いなどのアセスメントを伝えると、その場で治療や検査、処方につながってもらえる。患者を待たせたり不安にさせたりせず、合併症は最小限にとどめられます。主治医が手術中などで、即座の対応がむずかかったこれまでのジレンマが解消しまし

た」
主治医・専門医はどう見ているのでしょうか。脳神経外科の山城重雄部長は「痛みの訴えなどにすぐ対応してくれるので、患者の評判がとていい。患者の生活面も診てくれる医師として入院中のホスピタリティを高めています。医師としては患者

の具合を気にしながら別の手術に臨まなくてもよく、さらに専門に集中できるようになりました」。

スピード感も病院総合医の大きな利点です。園田部長が言います。

「主疾患に関することは、すぐ主治医に報告し対処につなげる。痛みなどは患者に説明して迅速な処方を行なう。こうした一つひとつの積み重ねが、患者のQOLや満足度の向上、主治医やコメディカルの負担軽減をもたらし、結果として医療の質の向上につながっていくのです」

ベテラン医師の 次の選択肢として

病院総合医は日本病院会が18年度から資格化し、熊本病院では現在25人が取得し、うち6人は包括診療部に所属しています。病棟配置から2年半。その効果について園田部長は「病棟のスタッフが患者の変化などに早く気づいて早く報告してくれるようになった。そのため褥瘡やスキントラブル、誤嚥性肺炎などは目に見えて減少しています」と

語っています。

さらに、病院総合医が適切なタイミングで処方変更して合併症を防いだり、症状の悪化を防止したりして医療の質が向上すれば、結果として病院の持ち出しを減らす効果が期待できます、経営上のメリットも指摘しています。また、病棟だけにとどまらず地域医療へと広がっていくのではないかと、今後の展開への期待も見せています。園田部長は言います。

「病院総合医は皆、何らかの診療科の専門を持ったうえでの医師なのです。その専門性を生かし、地域の患者をクリニックの主治医とともに生活の視点で診ながら、多職種のチーム医療による『断らない医療』を横断的にマネジメントしていく——まさに地域包括ケアの中心的な役割を担えるのではないのでしょうか。将来的には、専門を極めたベテラン医師が次のステップとして、熟練したスキルとともにマネジメント力やコミュニケーション力を発揮する病院総合医となつて、広く活躍してほしいと考えています」

(メディカル・リーフ

原澤一也)